



## さながらモリアの坑道 大谷資料館の地下採掘場跡

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館  
**江口知秀**  
Tomohide Eguchi

**大**谷石は、栃木県宇都宮市大谷町付近から産出する緑色凝灰岩で、加工しやすいわりには耐久性もある。さらにザラついた石質に緑がかかった色が美しく、建築石材として重宝され、地元の宇都宮市内はもちろん、各地で用いられている。

なかでもフランク・ロイド・ライトが、旧・帝国ホテルに使用したことは有名だが、ライト研究家の谷川正己氏によれば、当初ライトの眼中に大谷石はなかったという。そのお目当ては、おなじ凝灰岩でも石川県産の蜂ノ巣石で、これは赤味がかかった石だったとか。つまり、全く違う色合いで帝国ホテルを飾ろうと考えていたことになる。大谷石への変更に ついて、ライトは何も語っていないらしい。

さて、大谷石のふるさと大谷町には、地下採掘場跡を見学できる大谷資料館がある。採掘場跡はたいそう幻想的らしく、いろいろなイベントや結婚式も催され、映画やドラマなどのロケにも数多く使用されている。私は平成二十四（二〇一二年）に一度訪ねているが、東日本大震災の影響で自主閉館しており、門前で途方にくれた。近くに重要文化財の大谷磨崖仏がある大谷寺や、露天掘跡の壁面に刻まれた高さ二七メートルの平和観音、自然露出した大谷石の奇岩群など見どころがなければ、まったく無駄足になる

ところだった。そのような訳で、今回は珍しく開館を確かめてから足を運んだ。

露天の採掘場跡地に建てられた資料館に入ると、すぐに地下への入り口があり、プレハブ事務所のような扉を開けば、大谷石の階段が地下へと降っている。坑内気温は五度と外気よりかなり低いが、ジャケットを羽織っていれば問題はなさそう。入口の扉から察するに、中も期待はできないだろう、と思いきや、階段を降ると広大な地下空間が広がっていた。

ゆるい降りの坑道が、一〇〇メートルほど奥に向かって続いている。天井高は二〇メートルくらいだろうか。横幅もほぼ同じで、断面は正方形に近い。ところどころライトアップされ、美しいBGMも流れている。この空間が採石によって造られたのだから、その量は途方もない。なんでも大正中期から昭和四十年代まで採石した結果だそう。深さは地表から平均三〇メートル、面積は二〇、〇〇〇平方メートル。天井を支えるために、ところどころ岩体を太い柱状に残しているが、それがなければ広さはサッカーグラウンド約三面に相当する。その広い一部を一般開放している。

一部じゃ、あの突き当たりで終りだな、と見当をつけて坑道を降りていくと、左右の柱の間からさらなる空間が広がっていた。まるで映画「ロード・オ

ブ・ザ・リング」に出てきた「モリアの坑道」のようだ。観光客が坑道に潜むオークやゴブリンに見える。ホビットに似た同行者は、ずっとここに居たいと大喜びだ。

ゆっくりすごして地上に戻ると、指が少しかじかんでいた。時計を見れば、たっぶり一時間も坑内にいたことになる。時間を感じさせない見ごたえのある地下の異空間だった。



大谷資料館の地下採掘場跡

【交通】JR宇都宮駅西口6番乗場から大谷・立岩行きに乗車。約30分。「資料館入口」で下車。徒歩約10分。